

主な活動の報告

7月17・18日 文企委員会、現地調査



長野ろう学校、須坂東高校、飯山北、上田水道管理事務所、青木村立青木小、上田染谷丘高校の調査

7月24日 がん教育「いきるの教室」視察



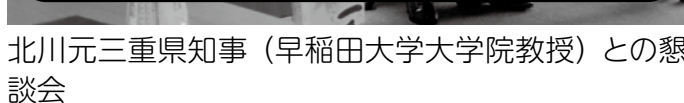
京都府大谷中学校で、東京大学医学部附属病院の中川恵一先生を迎えてのがん教育授業に参加しました

8月27日 経済対策・知事要望



「一歩踏み込んだ、継続性のある経済対策」を知事へ要望しました

9月7日 北川元三重県知事と懇談会



北川元三重県知事（早稲田大学大学院教授）との懇談会

9月18日 健康福祉部との勉強会



機能性低血糖症患者の方々と共に健康福祉部との勉強会

9月9日 日本性同一性障害と共に生きる会の方と懇談



「性同一性障害3・11を超えて」谷合規子さん出版を祝い、日本性同一性障害と共に生きる会の方と懇談

連絡先

お気軽に、直接お問い合わせください。

所在地 ▶ 〒386-1102 上田市上田原707-3
クラエンタービル104号

☎ ▶ 0268-75-7279

F A X ▶ 0268-75-7706

e-mail ▶ shimizu.jyunko@orange.plala.or.jp



清水じゅんこ 長野県議会だより

2012年10月
秋号(第5号)

県民クラブ・公明
発行責任者 小松千万蔵

長野県庁
長野市大字南長野字幅下692-2
☎026-232-0111 (県庁代表)

ごあいさつ

こんにちは。清水純子です。

日頃から 変わらぬご厚情を賜り、心から感謝申し上げます。

本年、文教企業委員会の副委員長として活動させて頂いております。

本年、教員の度重なる不祥事が発生し、滋賀県大津市での中学男子生徒の痛ましい自殺事件をはじめ、連日のように学校でのいじめに関するニュースが報道をされております。

今、教育行政は、大事な改革の局面にあたり、信州教育の再生が求められております。

“全ての根幹は教育にあり”との思いで、皆さんの声を県政に届けて参ります。



知っていますか？脳脊髄液減少症

脳脊髄液減少症は、交通事故やスポーツ外傷等、身体に強い衝撃を受けることにより、脳脊髄液が漏れて発症し、頭痛、首や背中痛み、腰痛、めまい、吐き気、うつ症状などの様々な症状が複合的に発症する病気です。

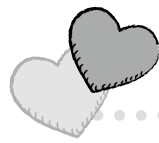
これまで研究が大きく立ち遅れていたため、「怠け病」「精神的なもの」と判断されるケースが多くありました。

昨年10月には脳神経外科学会学術総会において「診断基準」が発表され、今後の進展に大きな期待が寄せられます。

更なる周知を広げ、学校現場での発症も多いとも言われることから、教育現場での周知徹底と共に、不登校の児童・生徒への調査も求めて参ります。

もしかして・・・?と思う方は、長野県ホームページに診断病院の一覧が掲載されております!知ってもらうことが、支援の第一歩です。多くの方に伝えていきたいと思っております。





通学路の安全対策について

質問1 本年、通学中の児童を襲う痛ましい事故が全国で発生した。それを受け、緊急合同総点検が行われ、9月議会において7億円余の補正予算案が提出されているが、あらためて通学路の合同総点検での調査結果と今後の対応策について伺う。

回答 【教育長】

通学路の合同点検は、6月から8月にかけて、県内すべての公立の小学校及び特別支援学校を対象に緊急合同点検を実施した。

点検実施箇所は全体で1,988箇所にのぼり、何らかの対策が必要なものが2,104件あった。

緊急性が高く迅速な対応が求められるものについて、「通学路交通安全確保緊急対策」として、歩道の整備や信号機の改良などを実施していきたい考えで、建設部・警察本部合わせて、7億2千100万円余の予算計上を、お願いしている。

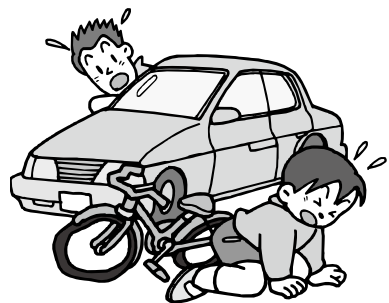


質問2 今回の取り組みが一過性のものとならない事が大事である。今後の安全点検体制の継続的調査・検証の実施についてどのように考えているか。

回答 【教育長】

通学路の安全対策は、あらゆる関係者が協力して取り組むことが重要である。

来年以降も、通学路の点検を継続的に実施し、危険箇所に対する要望等を県教育委員会において集約するとともに、関係機関で情報共有を図りながら、対策の推進及び進捗管理を行って、通学路における安全・安心な交通環境を創りあげていきたい。



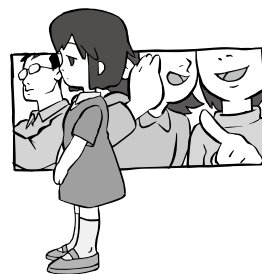
いじめ対策について

質問3 スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーは本年度予算削減により大きくその対応時間が削減されているが、今本気でいじめを見逃さないメッセージを子どもたちに伝えようとするならば、本年度での対応時間の確保が必要ではないか。

回答 【教育長】

いじめ・人間関係のトラブル等から心に不安を抱える児童生徒、そして問題行動等の背景にある家庭環境の課題に対して、派遣ニーズが高まっていることは認識している。

現在の活用状況と今後の見込について精査した上で、対応時間の確保に向けて、今後検討してまいりたい。



質問4

子どもたち自身が人権意識をしっかりと持ち、暴力から自分を守るための知識やスキルを持つための活動としてCAPプログラムがあるが、このような民間の支援の取り入れを強化していくことが必要と考える。また、スクールカウンセラーが担当する学校において、積極的に子どもたちへの意識啓発を促す体制づくりが必要と考えるがいかがか。

回答 【教育長】

CAPによる支援プログラムでは、当事者としての意識を高めるなど、優れた実践がある。今年度も教職員の人権教育研修で実施しており、9月10日には、事務局内でも実施した。優れた教育的支援プログラムに学びながら、職員研修などで積極的に広めていきたい。

スクールカウンセラーによる支援体制づくりについて、課題を検討しながら取り組んでいきたい。



脳脊髄液減少症について

質問5 3月26日に脳脊髄液減少症患者の会、患者を支える親の会から県に要望書を提出したが、この要望に対する県の取り組みはどうなっているのか。

回答 【健康福祉課長】

平成20年度から診察が可能な医療機関をホームページに掲載しており、現在、21の医療機関について、診療日等の情報を掲載している。

この病気の概要や治療方法等について周知、啓発を図るため、県立病院機構等の医療関係者、警察署交通課の関係職員、消防署の救急搬送担当職員、さらに教育関係者に対し、各種会議や研修会等を通じ説明を行っている。



質問6

学校現場での事故による発症が多いとも言われているが、不登校児童・生徒に対しての更なる周知徹底と調査を求めたい。

回答 【教育長】

年度当初より校長会等で説明を行うとともに、すべての学校および中間教室、市町村教育委員会へ周知している。

養護教諭研究協議会においても、専門医による講演会を行い、周知の重要性を認識した。しかし、この症状についての認知は、まだ十分ではないことも承知している。より正確な実態把握につとめてまいりたい。



詳しい内容については、長野県ホームページをご覧ください。